

浸水実績のある低地でも宅地が進出し、被害の潜在的危険性が増大

鶴見川

昭和41年



昭和41年当時、白く反射している区域が台風4号による湛水地区

昭和50年



昭和50年当時、写真中央部には人家・工場が密集している。4号台風時は湛水地区



図2-6

都市化による流出量の増大のしくみ

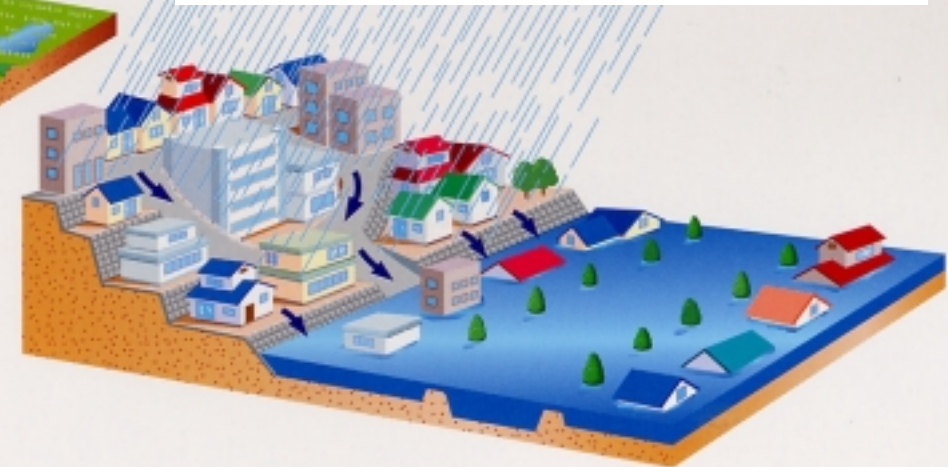
■開発が進んだ後

地表がコンクリートやアスファルトで覆われたり、森林や水田がなくなることにより、下流への流出が増大し、河川整備などが進まないと、低平地での氾濫被害が増加します。



■開発が進む前

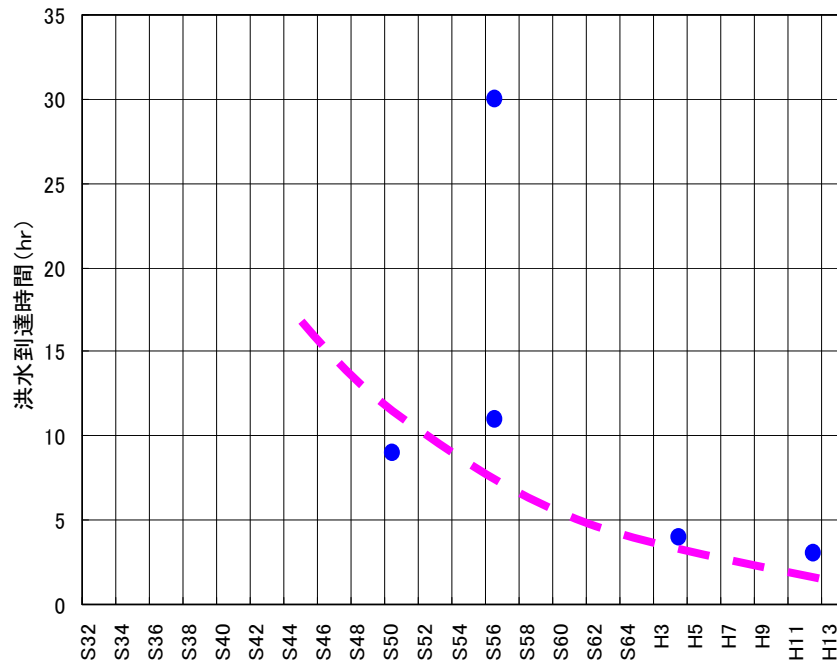
雨水の大半は地中に浸透したり、水田に貯留され下流への流出は抑えられます。



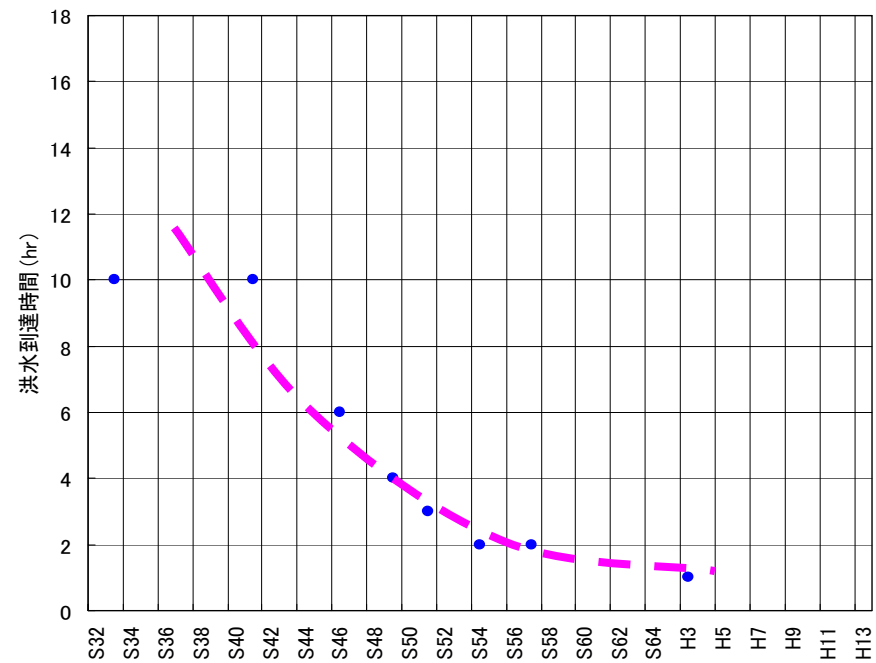
開発に伴い流域の保水・遊水機能が低下し、降雨のピークから流出のピークまでの時間が短くなるとともに、ピーク流量が増大

昭和30年代に比較して昭和50年代では、降雨ピークから流出ピークまでの時間が大幅に短縮する傾向の河川が多い。

伏籠川



鶴見川

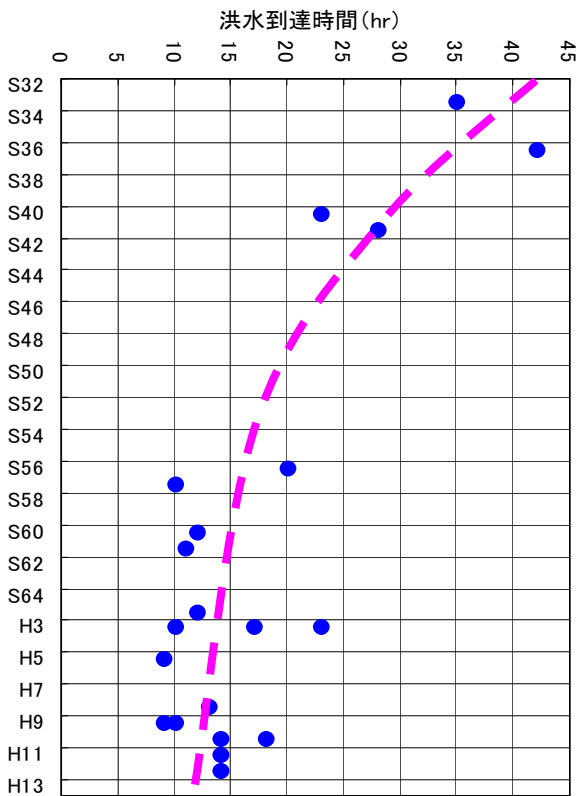


洪水到達時間：降雨ピークと基準点における流出量ピークの時間差

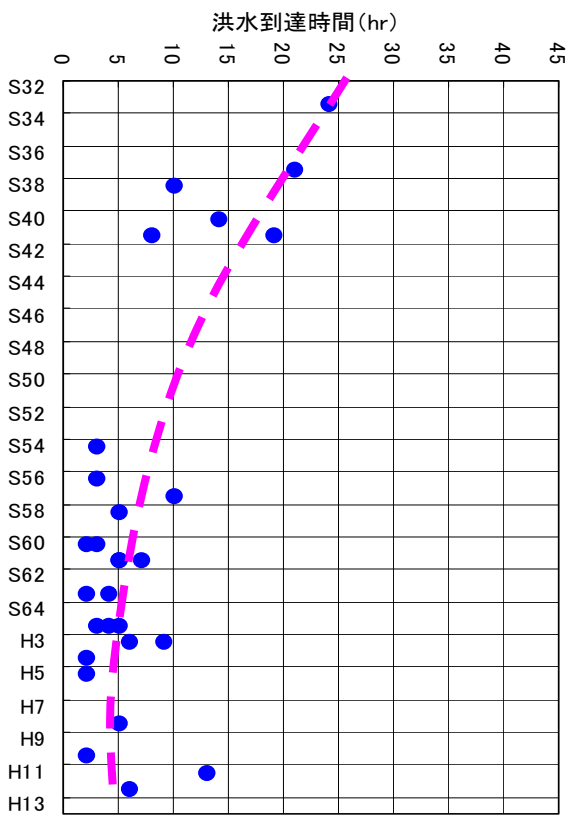
(実績洪水による)

中川・綾瀬川

中川



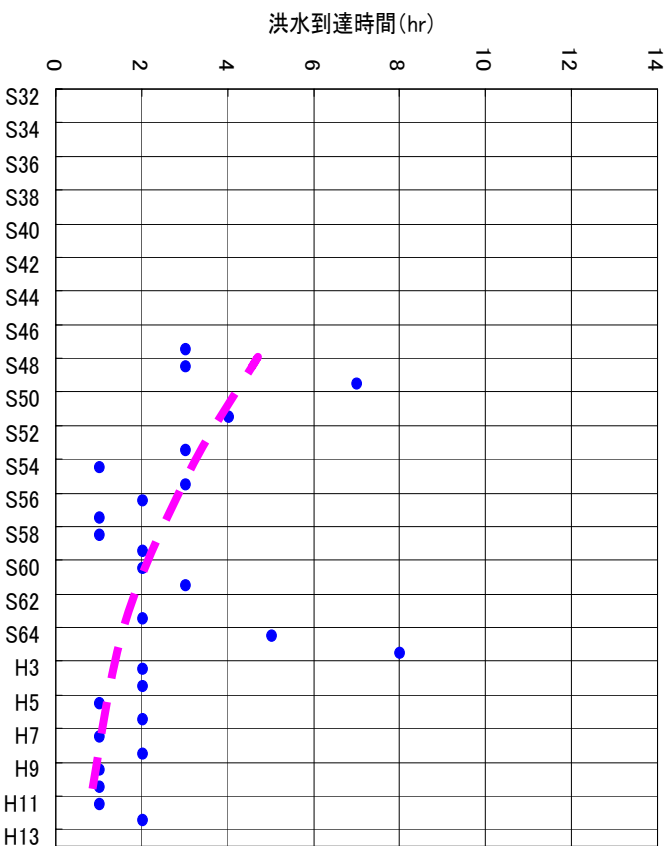
綾瀬川



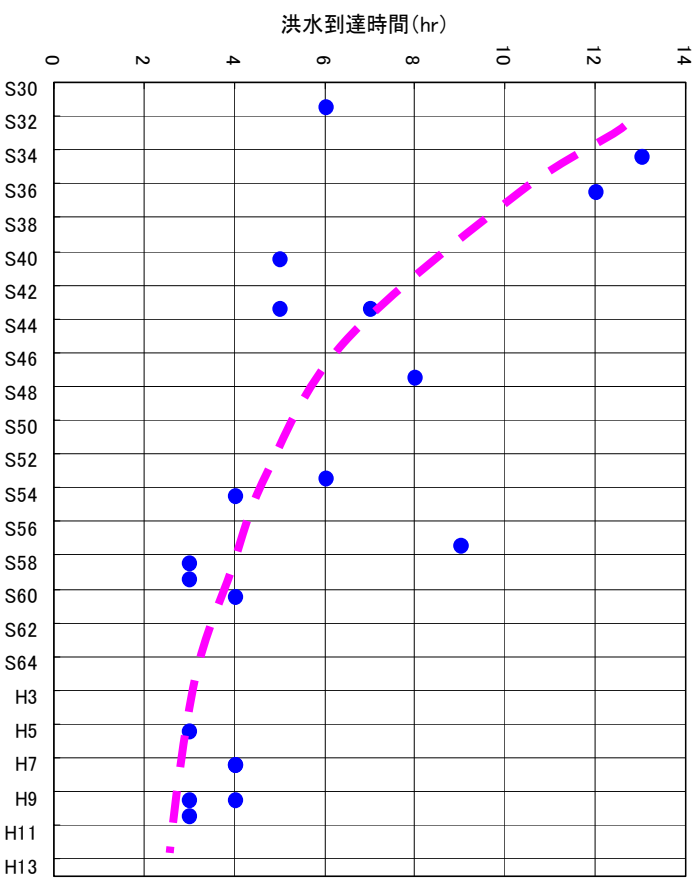
洪水到達時間：降雨ピークと基準点における流出量ピークの時間差

（実績洪水による）

新川



大和川



洪水到達時間：降雨ピークと基準点における流出量ピークの時間差

(実績洪水による)